

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.13 2007年6月30日号

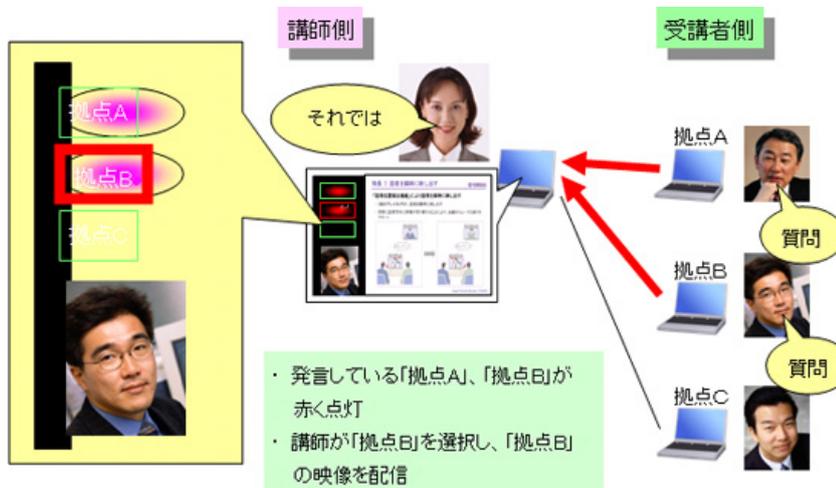
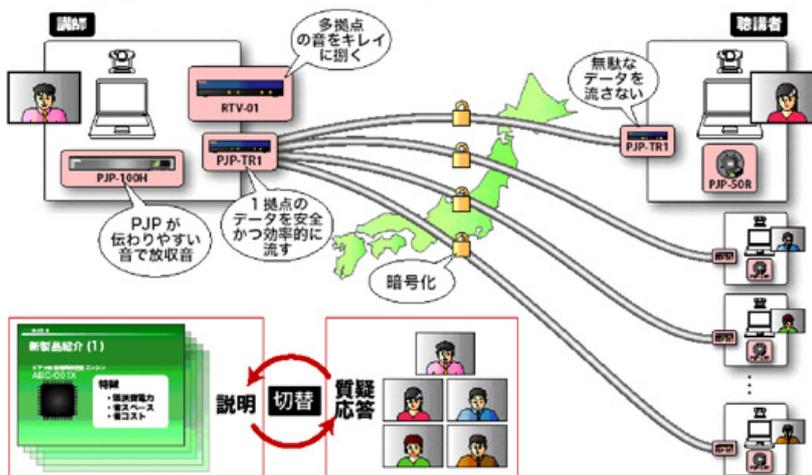
編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース

ヤマハ、導入コストを抑え、ネットワークへの負荷も低い、多地点間で行える遠隔トレーニングシステムを発表

1:Nモデルでスムーズなトレーニング



ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、従来のシステムに対して低価格を実現した「多地点遠隔トレーニングシステム」を発表、9月より出荷開始する。

今回発表した「多地点遠隔トレーニングシステム」は、多地点を同時に結んだ、社内での遠隔トレーニング、セミナー、営業報告会議などの用途を想定したシステム。

ヤマハのIP電話会議システム「プロジェクトフォン」、カメラモジュールとなるプロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ「PJP-CAM1」、映像・ドキュメントの配信を制御するコントロールユニット「PJP-TR1」の3台で構成されるシステム。その3台をワンセットで各拠点に設置する。

たとえば、10拠点ある場合は、その3台ワンセットを10セット必要となる。また、10拠点までの同時接続を行うための電話帳サーバが、その10拠点全体に対して1台必要となる。そのシステム構成で1拠点あたりの単価を計算すると税別で35.6万円となる。「その価格で見ると、当社のシステムは、従来のシステムに対して大幅に安価に導入いただける価格を実現したと自負している。」(ヤマハ)

この多地点遠隔トレーニングは、映像など音声以外のデータをIPマルチキャスト方式で配信、発話のない拠点は自動的に音声パケットを送出しない(無音検出・圧縮機能)などの仕組みを採用しているため、ネットワークへの負荷を低減している。また、コントロールユニットは、IPsecによるVPN接続を拠点間で行うため暗号化されたセキュリティのある通信が可能。

税別希望小売価格(1台)は、コントロールユニット(PJP-TR1)が78,000円、IP電話会議システム(PJP-50R)が160,000円、プロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ

(PJP-CAM1)が98,000円、電話帳サーバが、198,000円。

(PJP-50R 関連:CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.28 2006年10月30日号など)

ヤマハ、多様な使い方ができる Web 会議用 USB カメラを発表



プロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ PJP-CAM1
人を撮るだけでなく、書画カメラ的な使い方やカメラ部は取り外しも可能。前記事での多地点遠隔トレーニングシステムでも使用する。

ヤマハ株式会社(静岡県浜松市)は、Web会議用USBカメラ「ヤマハ プロジェクトフォン・フィッシュアイカメラ PJP-CAM1」を発表。7月下旬から出荷を開始予定。

従来 Web 会議は、ヘッドセットと小型 Web カメラを使い各拠点1名ずつで参加する形式が主流だったが、最近ではテレビ会議システムのように各拠点から複数人数で Web 会議に参加するという会議スタイルが新たに広がっているとヤマハでは見る。そういった新しい会議スタイルに対して、ヤマハは、音声面では昨年以來プロジェクトフォン(PJP-100、PJP-50R)を販売してきたが、今回映像面において、カメラモジュールを発売することで、プロジェクトフォンの話者位置検出機能と連動し、多人数での Web 会議に対応した Web カメラとして市場のニーズに対応していこうとする考え。

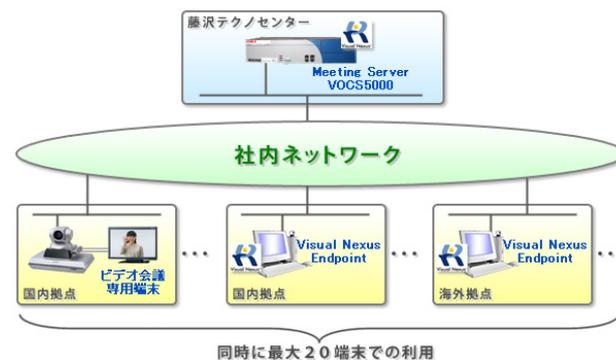
PJP-CAM1 は、有効画素数約 315 万画素(1/2 型単板式 CMOS)、360 度(対角線画角 180 度)撮影可能な魚眼カメラを搭載し、4つの撮影モードを持つUSBインターフェイスを持つ。映像出力、外部マイク入力端子も内蔵。魚眼カメラの映像はデジタル処理により平面映像に変換ため、カメラを動かすことなく、複数の参加者を捉えることができる。

4つの撮影モードには、基本となる前向き撮影のほか、上向き(全周囲)撮影、下向き(書類)撮影、カメラ部とらずし撮影(モックなどズーム撮影)を提供し、会議用途にあった利用の仕方が可能。

また、PJP-50 との連動では、話者位置検出機能によって自動的に話者方向を捉えて、その映像のみを切り出して撮影することができる。連動させる場合は、オーディオドライバーである PJP-50R 専用ソフトウェア(PJP-CAM1 に同梱)を PC にインストールすることにより可能になる。PC と PJP-50R を直接接続しなくてもよく、そのオーディオドライバーをインストールした PC は、同じネットワーク内にある PJP-50R をマイクスピーカーとして使用することができる。

税別希望小売価格(1台)は、98,000 円。

山武、沖電気のビデオ会議システム「Visual Nexus」を導入、国内外の 20 端末を同時接続、PC 上のアプリケーション画面も共有



ネットワーク構成図

沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都

江東区)は、株式会社山武(東京都千代田区)へ、沖電気工業のPC向けビデオ会議システム「Visual Nexus(ビジュアルネクサス)」を納入したと発表。

山武は、1906年に創業し、建物・工業及び生活に関連した各種オートメーション事業を展開している企業。

山武の藤沢テクノセンタに、ビデオ会議端末の一元管理及び多地点接続などの機能を提供するアプライアンスサーバ「VOCS 5000(ボックス 5000)」を設置し、国内拠点及び海外拠点を含めて同時に20端末を接続しPC上のアプリケーション共有ができるビデオ会議ネットワークを組んだ。

山武では、従来ビデオ会議専用端末を利用した会議を社内で行っていたが、海外拠点とのコミュニケーションは、電話やメールのほか、出張して打ち合わせをする場合が多かった。そのため、社内から改善要望が上がり、同社の情報システム部門にて検討され、「Visual Nexusが既存のビデオ会議専用端末とビデオ会議が行えるということ(H.323相互接続性)やシステムの拡張性などが評価され採用していただいた。」(沖電気ネットワークインテグレーション)という。

VOCS 5000は、Visual Nexusの技術をベースに、沖電気ネットワークインテグレーションが独自に商品化したアプライアンスタイプのサーバ「VOCS シリーズ」。小規模モデル用「VOCS 1000」もある。アプライアンスサーバは、すでにソフトウェアがプリインストールされており、セッティングも行われているハードウェア。特別な操作なしで、基本的に電源とネットワークに接続するだけですぐに使用開始が可能なもの。

Visual Nexusは、2003年トーメンサイバービジネス株式会社(現TCBテクノロジーズ株式会社)が、H.323対応のPCビデオ会議システムとして発売、その後幾度かのバージョンアップを重ねることで、機能追加や相互運用性、システム拡張性などを行ってきた。その間海外展開も行いながら国内外で200社以上の導入実績を積み上げてきた。2007年5月、沖電気工業がTCBテクノロジーズからVisual Nexus事業部門の譲渡を受け、現在は沖電気工業の製品として提供されている。

(VOCS シリーズ関連記事:CNAレポート・ジャパン Vol.6

No.10 2004年6月30日号など)

日立ハイテクノロジーズ、米HDビデオ会議メーカーライフサイズ社と総販売代理店契約締結、国内の販売網とサポート体制の強化を図る

株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)は、米国のHD対応ビデオ会議システムメーカー ライフサイズ・コミュニケーションズ(LifeSize Communications)社と、日本国内における総販売代理店契約を締結した。

日立ハイテクノロジーズは、ライフサイズ社と2005年11月に販売代理店契約を既に締結しているが、今回の契約はそれをさらに発展させた新しい契約締結となる。今回の契約によって、日立ハイテクノロジーズは、日本国内におけるライフサイズ社製品の販売網とサポート体制の強化を図る。



LifeSize Room(ライフサイズルーム)

「現在当社日立ハイテクノロジーズと協力していただける複数社とすでに販売パートナー契約を締結しており、今後も厳選した上で新規販売パートナーを開拓したいと考えている。」(日立ハイテクノロジーズ)同社では、ライフサイズ社製品の日本国内市場での浸透を図り、2010年には、日本国内でのシェア1位獲得を目指す考えだ。

ライフサイズ社は、2005年の日立ハイテクノロジーズとの締結以来、日本市場をアジア太平洋地域において重要

な市場と見ており、日本支社も 2006 年 9 月に設立。これまで、国内企業や教育関係などに販売を拡大させてきた。

「現在、ビデオ会議システムの市場は HD 対応端末への移行期を迎えており、国内市場での新たな需要が期待されている。ライフサイズ社は、2005 年から市場に先駆け、HD ビデオ会議システム LifeSize Room(ライフサイズルーム)を開発し、販売を開始。現在 HD 端末の市場では圧倒的な支持を得ているメーカーだ。HDビデオ会議は、従来のビデオ会議の約9倍の解像度を持つ。一度体験するとHDビデオ会議の良さはすぐわかっていただけると確信している。」(日立ハイテクノロジーズ)

ライフサイズ社は、専用の MCU(多地点接続装置)なしに4地点まで接続できる「LifeSize Room」の他、普及タイプの「LifeSize Team(ライフサイズチーム)」を既に製品化し、販売している。さらに端末以外にも、12 拠点、24 拠点まで接続可能な「LifeSize Multipoint(ライフサイズ マルチポイント)」のほか、ゲートウェイやファイアーウォール対応製品も販売している。

「単に端末だけを提供するだけではなく、ネットワーク上で必要となる MCU やゲートウェイ、ファイアーウォールトラバーサルなどの装置も合わせて提供することで、エンドツーエンドでHDビデオ会議ソリューションを提供したいという考えからだ。」(LifeSize 日本支社)

また、6月には端末向けの新しいソフトウェアアップグレード(バージョン 2.6)を発表。「暗号化方式の強化や音声符号化方式(Polycom Siren 14)などをサポートすることで他メーカー端末との相互接続性の向上を図った。今後も積極的に機能の追加や性能の向上などを常に行っていく考えだ。」(LifeSize 日本支社)

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.6 No.9 2004 年 5 月 15 日号、Vol.7 No.7 2005 年 5 月 15 日号、Vol.7 No.20 2005 年 11 月 15 日号など)

電通国際情報サービス、Mac OS X に対応したテレビ会議システム開発キットを発売

株式会社電通国際情報サービス(東京都港区)は、DV(デジタルビデオ)による高画質多地点テレビ会議システム(QualImage/Quatre(クオルイメージ/キヤトル)の開発キット(SDK)に Mac OS X 対応版を追加し、6 月 13 日から販売を開始した。

Quatre SDK は、以下の機能を自由に組み合わせ、Quatre の持つ DV 多地点テレビ会議機能を活用して、遠隔授業やテレビ会議システム等を開発するためのシステム開発キット。

(1)4地点以上の DV 映像・音声を受信して、1画面に合成し各地点へ返送、(2)画面合成時に各地点の映像を1/4もしくは1/16に縮小し、自由に配置可能、(3)各地点の音声ボリューム調整が可能で、マイナスワン音声に対応、(4)返送映像は地点ごとにフレーム数の指定が可能、(5)返送映像とは別に各地点へ特定地点の映像を送信可能、(6)返送映像とは別に全地点映像のマルチキャスト映像送出が可能、(7)IPv4、IPv6 の両プロトコルに対応済み。

システム開発キットは、コマンドラインからの利用が可能で、複雑なプログラムを作成しなくても、簡単なスクリプトを組み合わせるだけでテレビ会議のアプリケーションとして使用できる。さらに、他のアプリケーションから利用も可能だ。

今回発売する Mac OS X 版は、「Mac Pro」や「Mac Xserve」で利用できるようにしたもの。たとえば、MacPro 2.6Ghz Core2 x2を使用すると、8 地点程度のテレビ会議システムとして使用することが可能という。

また、Quatre の GUI 部分のソースコードを SDK に付属させた。これにより、システム構築にあたって、そのソースコードをサンプルプログラムとして参照することで、開発作業のハードルが大幅に下がり、開発工数を削減できると同社では見ている。

QualImage/Quatre は、受信した複数の DV 映像を、アナ

ログ信号に戻すことなくデジタルのままソフトウェアで合成し、DV ストリームとして送り返す多地点テレビ会議システム。映像の伝送表示にともなう遅延(0.3 秒)が少なく、テレビ放送と同等の 30 フレーム/秒の映像を可能とするところが強み。同時に音声処理も行う。遅延については、アナログへの変換を省きデジタル処理で行っていることで遅延の蓄積を最小限にした。また、デジタルでの DV 映像合成では、高性能な CPU が要求されるが、最新の CPU とソフトウェアの計算アルゴリズムの改良でテレビ放送並のフレーム数を実現した。

価格は、ライセンス形態により、100 万円から 500 万円。別途、Quatre ランタイムライセンスが必要。

SOBA プロジェクト、同社 Web 会議システムの ビジュアルコミュニケーション機能を提供する、 開発者向け Web API をリリース

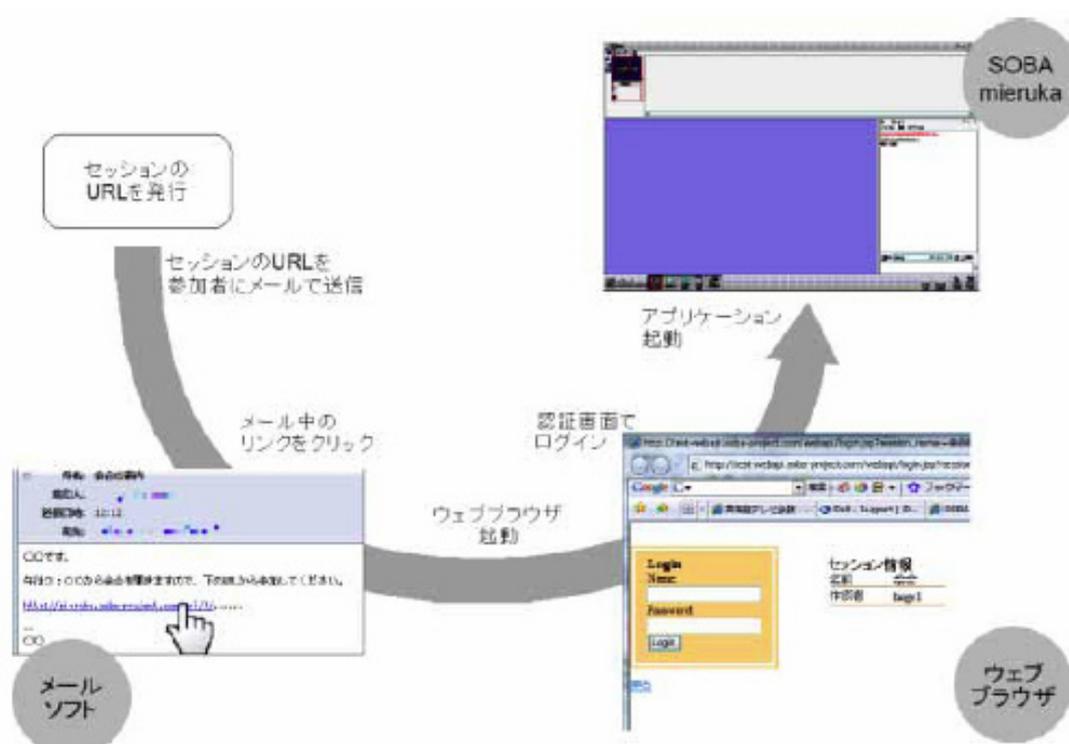
株式会社 SOBA プロジェクト(京都府京都市)は、同社が ASP サービスとして提供する Web 会議システム「SOBA mieruka(ソバミエルカ)」が備えるビジュアルコミュニケーション機能を、SOBA mieruka を提供している Web サイト以外の他の Web サイトからも利用可能とする「SOBA Web API Ver.1.0」を 6 月 21 日より提供を開始した。

SOBA Web

API は、主に Web サイト開発者向け Web API で、Web サイトから SOBA mieruka のビジュアルコミュニケーション機能を利用可能とするもの。また、グループウェア、ブログ、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などと SOBA mieruka を連携させることも出来、さらに、独自のインターフェイスを備える Web 会議サイトなどを構築することも可能だ。

たとえば、グループウェアでは、スケジューラーに URL を登録することで、そのリンクをクリックすることで SOBA mieruka の Web 会議画面が開き、直接会議に参加することができる。SNS やブログでは、プロフィールに URL を登録することで、Web サイト内から映像や音声を使ったリアルタイムなコミュニケーションを行うこともできる。

利用例としては、企業内システムに組み込んで本社支社間のミーティング、ブログや SNS に組み込んでのビジュアルコミュニケーション、EC サイトに組み込んで、お客様への商品説明、新しい Web 会議システムを開発して販売、オンライン語学レッスンサイトの構築などの開発用途にこ



の SOBA Web API を活用できると同社では考えている。

SOBA Web API のユーザ登録を行うと、LAN 内での利用に限り 90 日間 2 ユーザのアカウントを無料で提供。SOBA mieruka 正規契約ユーザ企業は、事前登録なしに制限無く SOBA Web API を利用できる。

SOBA プロジェクトでは、SOBA Web API の利用方法に関するドキュメント、意見交換、問い合わせが出来る公式サポート掲示板などを備えたコミュニティサイトを開設している。

(関連記事:CNA レポート・ジャパン Vol.9 No.7 2007 年 3. 月 15 日号)

ブイキューブ、ウェブテレビ会議やウェブセミナーのコンテンツを一括管理する ASP サービスを開始



CMS サービス画面例

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社が提供しているウェブテレビ会議サービス「nice to meet you」の各種リアルタイムとオンデマンド双方のコンテンツを行うコンテンツ

マネージメントシステム「nice to meet you for CMS」を 6 月 28 日から ASP サービスとして開始した。

同社が ASP サービスとして提供するウェブテレビ会議システム「nice to meet you for ミーティング」やウェブセミナーシステム「nice to meet you for セミナー」のコンテンツ管理ツールとして今回開発した。nice to meet you for CMS は、同じく ASP サービスとして提供するが、カスタマイズ可能なシステム買取での提供も行う。

nice to meet you for セミナー でオンラインセミナーの配信や録画映像のオンデマンド配信を行う場合、配信するコンテンツ毎に閲覧用 URL を発行し、ユーザへ告知を行う必要があるが、nice to meet you for CMS では、これらのコンテンツを一括管理する。ユーザは nice to meet you for CMS にログインするだけで、視聴できるコンテンツが全て表示され閲覧ができる。また、コンテンツの配信側も CMS のログイン方法をユーザへ案内するのみでよいと、コンテンツ毎にユーザへ告知する作業が不要となる。

「例えばオンラインセミナーの場合、通常はリアルタイムセミナー開催ごと、オンデマンドコンテンツ発表ごとに都度ユーザへ告知が必要となるが、そこへ CMS を使用することで、ユーザは CMS へログインするのみで全てのコンテンツが閲覧可能になる。ユーザへの告知は初回のみ行なえばよい事になる。」(ブイキューブ)

またコンテンツ管理以外で、ユーザ管理やメール配信管理、アクセスログ管理なども行える。そうすることで、どのユーザがどのコンテンツをどの程度閲覧したのかを確認することが可能。

「ユーザ管理機能もついており、e ラーニングなどでユーザごとの閲覧の進捗をはかるなどにもお使いいただける。弊社では CMS を入り口とし、各種ビジュアルコミュニケーションサービスを連携させることで、それぞれの利便性を高める事ができると考えている。」(ブイキューブ)

nice to meet you for CMS の利用にあたっては、nice to meet you for セミナーなどの別途利用契約が必要になる。

ショートニュース

日本電信電話株式会社(東京都千代田区、以下 NTT)の 5 月 24 日の発表によると、同社が、国際電気通信連合

電気通信標準化部門 ITU-T SG12 に標準化提案していたテレビ電話サービスの総合品質評価モデルが正式勧告 G.1070 として発行された。ユーザが実感する IP テレビ電話サービスの品質に関する尺度の共通化や品質を確保したサービスの発展に資するものと同社では見ている。

【海外 news】 米テレプレゼンスメーカー TELIRIS 社のシステムが、グローバルに展開する企業 11 社に 50 システム (会議室) を納入したと 6 月 4 日同社からのプレスリリースにて発表。Fidelity 社、QUALCOMM 社、Rolyal Bank of Scotland 銀行、Merck 社やその他では、携帯電話機大手、メディアエンターテインメント、たばこ、通信事業者など。TELIRIS 社では、テレプレゼンスシステムをマネージドサービスとともに提供している。

セミナー・展示会情報

【国内】

第 2 回 Codian 技術セミナー

～HD (ハイデフィニション：高解像度) 多地点接続テレビ会議～

日時: 7 月 13 日 (金) 13:00～16:00

会場: アルカディア市ヶ谷 私学会館 4F 鳳凰の間

主催: 株式会社メディアプラス

詳細・申込: <http://www.mediaplus.co.jp/news/070611.html>

CIAJ えくすぱーと・のれっじ・セミナー

ネット・コラボレーション組織 ～映像コミュニケーションによる革新

日時: 7 月 20 日 (金) 10:00-11:30

場所: CIAJ B～E 会議室 (港区浜松町)

講師: 児玉 充 氏

(日本大学 商学部・大学院商学研究科 教授)

主催: CIAJ【情報通信ネットワーク産業協会】

詳細・申込:

https://cp11.smp.ne.jp/ciaj/seminar?_act=Regform&seminarId=070720-1

編集後記

CNAレポート・ジャパンへ、日々ご協力、ご支援誠に有り難うございます。今号もご覧頂きまして有り難うございました。

次号も宜しくお願い致します。

CNAレポート・ジャパン代表 橋本 啓介